




令和6年2月1日

兵庫県内経済情勢報告 (令和6年1月判断)

1. 総論

【総括判断】「持ち直している」






| 項目 | 前回 (5年10月判断) | 今回 (6年1月判断) | 前回比較 |
|------|--------------|-------------|---|
| 総括判断 | 持ち直している | 持ち直している |  |

(注) 6年1月判断は、前回10月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある。以上のことから、県内経済は、持ち直している。

【各項目の判断】

| 項目 | 前回 (5年10月判断) | 今回 (6年1月判断) | 前回比較 |
|------|------------------------|------------------------|---|
| 個人消費 | 緩やかに回復しつつある | 緩やかに回復しつつある |  |
| 生産活動 | 緩やかに持ち直している | 緩やかに持ち直している |  |
| 雇用情勢 | テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある | テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある |  |
| 設備投資 | 5年度通期は前年度を上回る見込みとなっている | 5年度通期は前年度を上回る見込みとなっている |  |
| 企業収益 | 5年度通期は減益見込みとなっている | 5年度通期は減益見込みとなっている |  |

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。さらに、令和6年能登半島地震の経済に与える影響に十分留意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費「緩やかに回復しつつある」

百貨店・スーパー販売額は、今期は前期から引き続き前年を上回っているものの、気温が高く冬物衣料の売れ行きが伸びなかったなどの要因から、増加率は前期よりも下降している。

ショッピングセンター販売額は、今期は前期から引き続き前年を上回っており、コロナの「5 類」移行により人流が回復している中、物価高等に伴う単価の底上げなどの要因から、増加率は前期よりも上昇している。

コンビニエンスストア販売額は、今期は前期から引き続き前年を上回っているものの、前期がコロナの「5 類」移行後の人流回復により好調であったなどの要因から、増加率は前期よりも下降している。

ドラッグストア販売額は、今期は前期から引き続き前年を上回っており、化粧品や医薬品が好調であるなどの要因から、増加率は前期よりも上昇している。

ホームセンター販売額は、前期は前年を上回っていたものの、コロナの「5 類」移行後の外出需要の増加などの要因から、今期は前年を下回っている。

家電大型専門店販売額は、今期は前期から引き続き前年を上回っており、さらに増加率は前期よりも上昇している。

乗用車の新車登録届出数は、今期は前期から引き続き前年を上回っているものの、増加率は前期よりも下降している。

宿泊施設では、コロナの「5 類」移行やインバウンド効果などから、稼働率は前期よりも上昇している。

これらのことから、個人消費は、緩やかに回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 今年は気温が高く、冬物衣料の売れ行きが伸びなかったものの、コロナの5 類移行後初めての年末商戦が賑わい、過去最高の売上を更新。(百貨店)
- 値上げのペース自体は鈍化しているものの、節約志向により購入点数は減少が続いている。一方、購入単価が上昇しており売上は前年並みを確保できている。(スーパー)
- コロナの5 類移行により人流が次第に回復してきている中、物価高・コスト高に伴う単価の底上げもあり、年末以降の売上は好調。また、飲食の客数もコロナ前の水準まで回復している。(ショッピングセンター)
- コロナの5 類移行後の人流回復により好調だった前期に比べると減少となっており、特に観光地や行楽地の店舗でその傾向が顕著。また、値上げにより買上点数も減少している。(コンビニエンスストア)
- 前期に引き続き化粧品が好調であるほか、インフルエンザの流行などにより医薬品もよく売れている。
(ドラッグストア)
- コロナの5 類移行後の外出需要の増加により、DIY 用品や家庭用品などで大幅にペースダウンしているほか、暖冬でもありストーブや防寒用品の売れ行きも悪い。また、日用品はチラシ効果もあり好調に推移しており、消費者の節約志向は夏よりも高まっているように感じている。(ホームセンター)
- 巣ごもり需要の反動により、テレビやパソコンの売れ行きは依然戻っていないものの、法改正によるスマートフォンの駆け込み需要や高性能モデルの定番化による単価の上昇などにより前期比横ばいとなっている。(家電量販店)

- 半導体の部材供給不足の解消により生産台数が増加しており、前期に引き続き堅調に推移している。(自動車販売店)
- コロナの5類移行による法人の行事利用に加え、修学旅行での利用やインバウンド効果もあり堅調に推移している。(宿泊)

■ 生産活動「緩やかに持ち直している」

鉱工業指数(生産)は、「電気・情報通信機械」や「汎用・業務用機械」等が上昇しているものの、「生産用機械」や「鉄鋼・非鉄金属」等が低下している。一方、企業からは、コロナ禍からの人流回復により引き続き堅調に推移しているといった声や、供給不足の解消により自動車向けが増加しているなどの声が聞かれている。

これらのことから、生産活動は、緩やかに持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 自動車販売の増加に伴い、前期に引き続き堅調に推移している。(電気・情報通信機械)
- 半導体不足の回復による自動車生産の正常化から、今年の夏ごろより順調に注文が入ってきており、足下の生産は計画よりも若干上振れしている。(汎用機械)
- 脱炭素関連で大口案件があったものの、それを見越し計画的に生産を行っていることから稼働率はほぼ横ばいとなっている。中国での景気減速や輸出規制により需要の低迷が続いている。(生産用機械)
- 自動車部品の受注が増加傾向にあるほか、調整局面が続いていたIT・半導体向けも緩やかに回復している。(鉄鋼)
- 在庫調整局面であった半導体製造装置向けは前期で底入りした感があり、今期は横ばいとなっている。また、コロナ明けからの人流回復により輸送用機械向けが好調であるほか、自動車向けも生産回復に伴い順調に推移している。(金属)
- コロナからの経済回復に伴う需要の回復や、インバウンド効果などもあり引き続き堅調となっている。(輸送機械)
- 一部海外向けが景気減速により減少しているが、自動車向けは生産の回復に伴い増加している。また、低迷していた半導体向けも回復基調にある。(化学)

■ 雇用情勢「テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある」

令和5年11月の有効求人倍率は、受理地別では1.03倍、就業地別では1.16倍で推移している。

また、法人企業景気予測調査の従業員数判断BSIについて、全産業の現状判断は、令和5年10～12月期調査では24.9%ポイントと引き続き「不足気味」超となっている。

以上のことから、雇用情勢は、テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 新規求人数は、人手不足であっても物価高や先行きの不透明感により、特に製造業や卸・小売業において求人を控える傾向が継続している。(公的機関)
- 増加する受注に対して現状の人員で対応しているため不足感がある。求人は出しているが、生産現場は過酷で体力的に耐えられずすぐに辞めていく者もいる。賃上げしたいが、材料費やガス代が上がっている中でこれ以上のコスト増は難しい。(食料品)
- 特に営業職が不足。募集をかけても集まらない。(繊維)
- 現場の作業員が集まらず不足している。応募が来ても高齢の方が多く、若者を確保するのが難しい。(パルプ・紙)
- ハローワークに求人は出しているが、電気工事を行う資格保持者が不足している。メインとなる40～50代の働き手が全体として少なく、より待遇の良いある程度の規模の会社に流れている。(建設)
- 待遇面は定期昇給も実施しており、そのほか勤務時間の縮小や社宅の借上げなど徐々に良くなっている。一方、募集はかけているが、新規採用も目標まで届いていないと聞いている。(その他運輸業)
- 正職員(営業職・事務職)、非正規(パート・アルバイト)問わず不足。(卸売)

■ 設備投資「5年度通期は前年度を上回る見込みとなっている」

法人企業景気予測調査(令和5年10～12月期調査)でみると、5年度通期の設備投資は、製造業では「輸送用機械」、「化学」等が前年度を上回っており、非製造業では「不動産」、「運輸・郵便」等が前年度を上回っていることから、全産業では「前年度を上回る見込み」となっている。

■ 企業収益「5年度通期は減益見込みとなっている」

法人企業景気予測調査(令和5年10～12月期調査)でみると、5年度通期の経常利益は、製造業では「情報通信機械」等が増益見込みとなっているものの、非製造業では「運輸・郵便」等が減益見込みとなっていることから、全産業では「減益見込み」となっている。

【その他の項目】

- **住宅建設** 新設住宅着工戸数（令和5年11月、後方3ヶ月移動平均）で見ると、前年を下回っている。
- **公共事業** 前払金保証請負金額（令和5年12月、年度累計）で見ると、前年を上回っている。
- **輸出入** 神戸港の通関実績（円ベース、令和5年9～11月、3ヶ月平均）で見ると、輸出は、半導体等製造装置、プラスチック等が増加していることから、前年を上回っている。
なお、輸入は、前年を下回っている。
- **企業倒産** 企業倒産件数（令和5年10～12月、3ヶ月平均）は、前年を上回っている。
- **企業の景況感** 法人企業景気予測調査（令和5年10～12月期調査）の景況判断BSIで見ると、現状判断は「上昇」超となっている。
先行きについては、全産業で見ると、令和6年1～3月期に「下降」超に転じ、令和6年4～6月期は「下降」超で推移する見通しとなっている。

【問い合わせ先】
神戸財務事務所 財務課
TEL：078-391-6942